

● 世界の主な火山活動

平成 25 年（2013 年）7 月に噴火したと報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。

ポポカテペトル（Popocatepetl） メキシコ（図中 A） 標高 5,426m

期間中、ポポカテペトルの火山活動は活発な状態であった。ガスや蒸気、火山灰の噴出が継続し、火口からの赤熱現象がたびたび観測された。6 日には火山警戒レベルが黄色、フェーズ 3 に引き上げられた。噴煙は最高で火口上 3 km まで上昇し、70km 離れたメキシコシティにまで火山灰が降下した。多数の航空便が欠航になった。

7 日に行われた上空からの観測によると、火口内に直径 250m の溶岩ドームが新しく形成されていたが、15 日の観測では、その溶岩ドームは爆発的噴火により崩壊し、幅 200m、深さ 20～30m の新しい火口が形成されていた。

トゥングラワ（Tungurahua） エクアドル（図中 B） 標高 5,023m

12 日から火山性地震が増加し、それ以降も地震活動が活発な状態が続いた。14 日には大きな爆発的噴火が発生し、大規模な火砕流が北西の峡谷を数回流下した。ストロンボリ式活動はその後も継続し、岩石の塊が何度も山腹に放出された。空振は 14km 離れた地点でも観測された。噴煙はほぼ毎日観測され、鳴動も定期的に報告された。噴煙は最大で火口上 8.3km まで上昇し、180km 離れた地域でも降灰が確認された。新聞記事によると 200 人以上が避難した。

火山活動は 28 日以降より活発となり、多数の火山性地震が観測され、爆発的噴火が大規模になり頻繁に発生した。

（以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P（Global Volcanism Program）による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。）

